

2015年3月期 上半期決算説明会

2014年10月31日
TDK株式会社

◆2015年3月期 上半期連結業績概要

執行役員 桃塚 高和

◆2015年3月期 通期見通しについて

代表取締役社長 上釜 健宏

2015年3月期 上半期連結業績概要

執行役員
桃塚 高和

桃塚でございます。本日はご多忙のところ、当社2015年3月期上半期決算説明会に多数お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。それでは私のほうから業績概要について説明させていただきます。

- ◆売上は過去最高の5,023億円。
営業利益は前年同期から64%増の279億円。
- ◆受動部品の売上・営業利益が半期ベースで過去最高。
(営業利益は前年同期から倍増)
自動車市場向け、中国・北米スマホ向け販売が好調。
- ◆フィルム応用製品は、1Qは低調も上半期では
前年同水準の利益を確保。二次電池が2Qから
北米スマホ向け販売が好調に推移。

まず、この上半期の決算のポイントでございますが、売上は過去最高の5,023億円になりました。営業利益は前年同期から64パーセント増の279億円になりました。特に受動部品の売上及び営業利益が半期ベースで過去最高を更新しています。営業利益については前年同期から倍増となっております。市場的には自動車市場向け、また中国・北米スマートフォン向けの販売が好調に推移しております。この受動部品の業績好調が、全社上半期の業績を牽引しています。また、フィルム用製品ですが、第一四半期は低調でしたが上半期では、前年と同水準の利益を確保しております。このセグメントの主な製品は二次電池でございますが、第二四半期から北米スマートフォン向けの販売が好調に推移しております。

連結売上高は5,023億円、営業利益は279億円

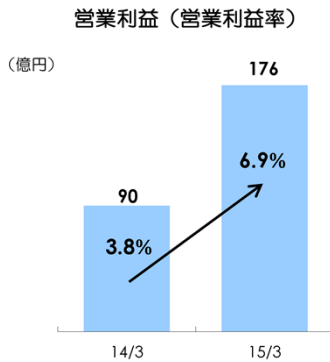
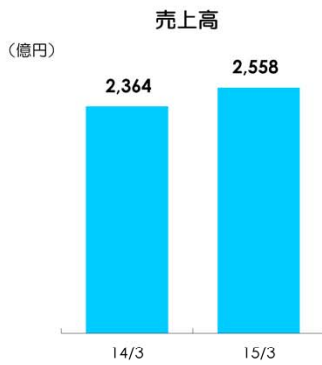
(億円)	2014年3月期 第2四半期累計実績 (2013.4.1～2013.9.30)	2015年3月期 第2四半期累計実績 (2014.4.1～2014.9.30)	対前年同期比	
			増減	増減率(%)
売上高	4,838	5,023	185	3.8
営業利益	170	279	109	64.1
営業利益率	3.5%	5.6%	+2.1pt	-
継続事業税引前利益	181	274	93	51.4
継続事業純利益	108	196	88	81.5
非継続事業純利益	△ 38	-	-	-
非支配持分利益	6	14	8	133.3
当期純利益	64	181	117	182.8
1株当たり利益（円）	50.90	144.17	-	-
為替	対ドルレート（円）	98.88	4.2%の円安	
	対ユーロレート（円）	130.04	6.9%の円安	
為替変動による 影響金額		売上高：約169億円の増収 営業利益：約32億円の増益		

(注) 2014年3月期に非継続となったデータテープ事業及びブルーレイ事業に係る数値を組替え再表示しております。

それでは上半期の業績概要についてご説明いたします。当上半期につきましては非継続事業はございません。売上高5,023億円で前年同期比185億円、3.8パーセントの増収となりました。営業利益は279億円、前年同期比109億円、64.1パーセントの増益。営業利益率は5.6パーセントで2.1ポイント増加しております。税引き前利益は274億円となり、前年同期比93億円、51.4パーセント増益、当期純利益は181億円、前年同期比117億円、182.8パーセント増益となっております。一株あたりの純利益ですが144円17銭となりました。

当上半期の平均の為替レートでございますが、対ドルで103円2銭、4.2パーセントの円安、対ユーロで138円96銭、6.9パーセントの円安になっております。これによる為替の影響額ですが売上高で約169億円の増収、営業利益では約32億円の増益となっております。為替の感応度でございますが、これまでご説明させていただきますように円とドルの関係におきましては1円の変動で年間営業利益で約14億円の影響と試算しております。

売上高 2,558億円（前年同期比8.2%増）
営業利益 176億円（前年同期比95.6%増）



●セラミックコンデンサ

- ・堅調な自動車市場を中心に前年同期より売上増
- ・生産性改善により利益率向上

●インダクティブデバイス

- ・好調なICT市場（特に通信機器向け）及び堅調な自動車市場向けで売上が増加
- ・品種構成の良化により利益拡大

●高周波部品

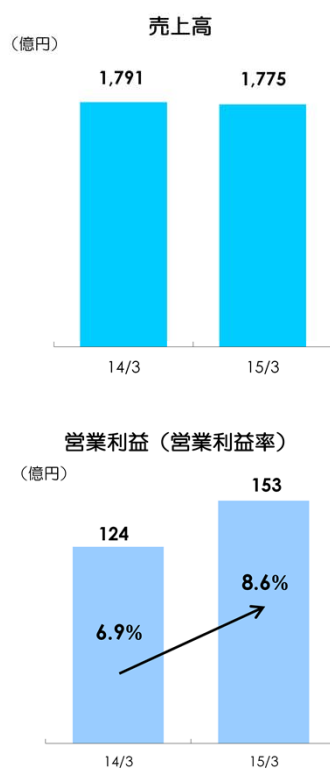
- ・旺盛な中国スマホ向け需要を中心にディスクリート製品の販売好調
- ・生産性改善効果や品種構成の良化により収益は大幅改善

●圧電材料部品

- ・自動車向け部品やカメラモジュール用VCMの販売増加により前年同期比増収増益

上半期の各事業の状況についてご説明いたします。まず受動部品でございますが売上高2,558億円、前年同期比8.2パーセント増。営業利益が176億円、前年同期比95.6パーセント増益となっております。受動部品の全製品におきまして前期に比べて増収増益となっております。セラミックコンデンサは、自動車市場向け販売が堅調に推移し、前年同期よりも売上が増加し、生産性改善の効果により利益率も向上しております。インダクティブデバイスにおきましては好調なICT市場、特に通信機器向け、また、自動車市場向けで売上が増加。また、品種構成の良化によって利益が大幅に拡大しております。

高周波部品につきましては、旺盛な中国スマートフォン向けの需要を中心にディスクリート製品の販売が好調でございました。生産性の改善や品種構成の良化によって収益は大幅に改善し、安定して利益を出せる体質になっております。圧電材料部品、こちらは自動車向け部品、カメラモジュール用のVCMの販売増加により前年同期比、増収増益となっております。



売上高 1,775億円（前年同期比0.9%減）
営業利益 153億円（前年同期比23.4%増）

●記録デバイス（HDDヘッド）

- 出荷数量は前年同期より減少も、生産性改善効果や品種構成の良化により前年同水準の利益を確保

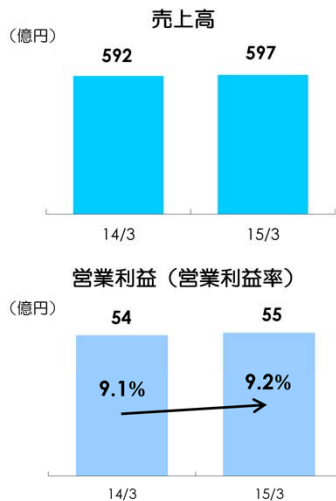
●マグネット

- 前年同期に発生したフェライトマグネットの拠点集約費用がなくなったこと等により前年同期より赤字縮小

●電源

- 半導体製造装置、F A機器、計測機器等の産業機器市場向け販売が堅調に推移し黒字化

続きまして磁気応用製品の事業でございますが、売上高が1,775億円、前年同期比0.9パーセント減、営業利益については153億円、前年同期比23.4パーセント増加になっております。記録デバイス、HDDヘッドでございますが、出荷数量は前年同期よりも減少いたしました。生産性の改善効果、また品種構成良化、固定費削減等で前年同水準の利益を確保しております。次にマグネット製品、前年同期に発生しましたフェライトマグネットの拠点集約費用がなくなったことや稼働率が戻ったこと等によって、前年同期より赤字が縮小しております。電源製品は、半導体製造装置等の産業機器市場向けの販売が堅調に推移し黒字化しております。



売上高 597億円（前年同期比0.8%増）
営業利益 55億円（前年同期比1.9%増）

●エナジーデバイス（二次電池）

- ・1Qは北米主要顧客向け新機種販売前の生産調整により販売は低調だったものの、2Qから北米向け販売が大きく立ち上がるとともに、中国向け販売も拡大。

続きまして、フィルム用製品事業でございますが、売上高が597億円、前年同期比0.8パーセント増、営業利益が55億円、前年同期比1.9パーセント増となっております。このセグメントの主な製品は二次電池でございますが、第一四半期は北米主要顧客の新機種発売前の生産調整等によって販売が低調だったわけですが、第二四半期に入って予定通り北米向けの販売が大きく立ち上がったと共に中国向けの販売も拡大しました。それによって上半期では前年同期並みの利益を確保しております。

営業利益増減分析

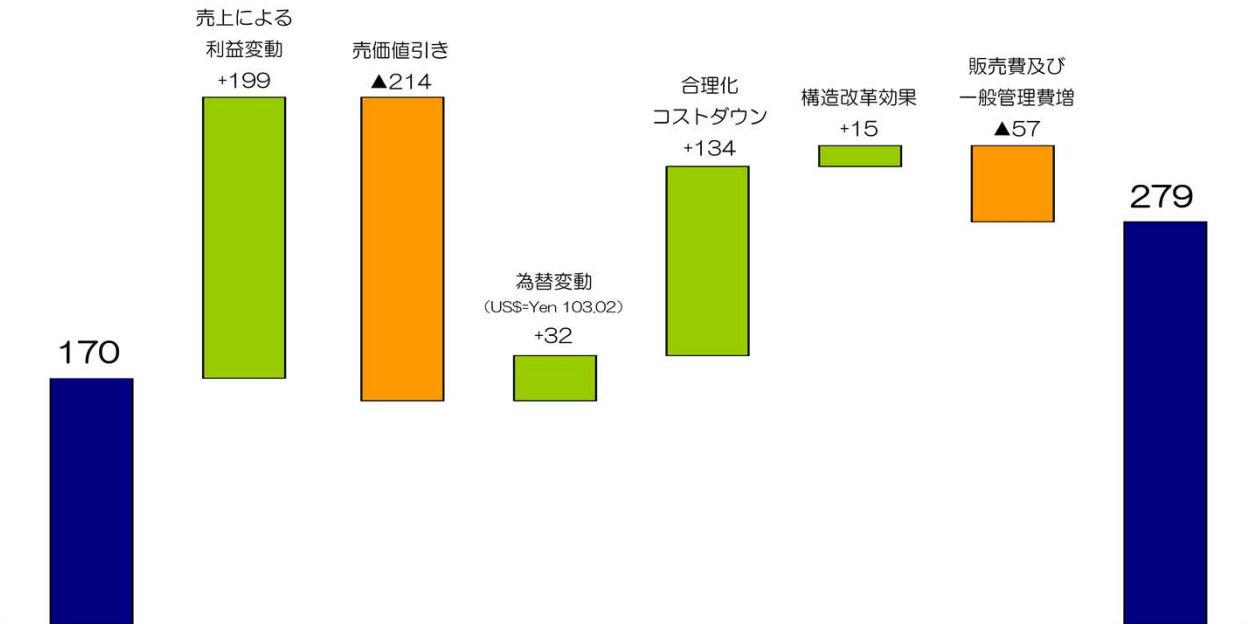


2014年3月期
上半期
170億円

営業利益 +109億円

2015年3月期
上半期
279億円

(単位：億円)



Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 上半期決算説明会

TDK株式会社

2014年10月31日

- 9 -

続きまして、上半期の営業利益の前年比較の要因分析です。操業度、品種構成等を含んだ売り上げの増加による利益変動で約199億円の増益要因がございました。前年比で受動部品の販売が自動車向け及びICT向けに全製品増加いたしました。また、プロダクトミックスも改善したことで増益要因になり、あわせてマグネットにおいては前年の中国拠点の集約に伴う、稼働率低下の要因がなくなったことも増益の要因になっております。次に売価の下落によりまして約214億円の減益要因がございました。次に円安による為替の影響で約32億円の増益要因、合理化コストダウンではHDDヘッド、また受動部品等で生産性の改善、合理化が進みまして原材料値下げとあわせて全体で約134億円の増益要因がございました。構造改革効果としては約15億円の増益要因。次に販売費、一般管理費の増加によって約57億円の減益要因となっております。

(億円)	2014年3月期 第2四半期実績	2015年3月期 第2四半期実績	対前年同期比	
			増減	増減率(%)
売上高	2,494	2,648	154	6.2
営業利益	125	183	58	46.4
営業利益率	5.0%	6.9%	+1.9pt	-
継続事業税引前利益	129	170	41	31.8
継続事業純利益	93	133	40	43.0
非継続事業純利益	△ 33	-	-	-
非支配持分利益	△ 1	9	10	-
当期純利益	60	124	64	106.7
1株当たり利益(円)	47.95	98.43	-	-
為替	対ドルレート(円)	99.02	4.9%の円安	
	対ユーロレート(円)	131.11	5.1%の円安	
為替変動による 影響金額		売上高：約111億円の増収 営業利益：約22億円の増益		

(注) 2014年3月期に非継続となったデータテープ事業及びブルーレイ事業に係る数値を組替え再表示しております。

続いて、第二四半期の連結業績概要です。売上高は2,648億円で前年比6.2パーセント増収となりました。営業利益については183億円、前年同期比46.4パーセント増益。純利益が124億円、前年同期比106.7パーセントの増益となっております。

セグメント別四半期実績



(億円)		2014年3月期 第2四半期 (A)	2015年3月期 第1四半期 (B)	2015年3月期 第2四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対直前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	351	365	373	22	6.3	8	2.2
	インダクティブデバイス	355	367	388	33	9.3	21	5.7
	その他受動部品	488	502	562	74	15.2	60	12.0
	受動部品合計	1,194	1,234	1,324	130	10.9	90	7.3
	記録デバイス	663	591	637	△ 26	△ 3.9	46	7.8
	その他磁気応用製品	266	280	267	1	0.4	△ 13	△ 4.6
	磁気応用製品合計	929	871	904	△ 25	△ 2.7	33	3.8
	フィルム応用製品合計	327	225	372	45	13.8	147	65.3
	その他	44	45	48	4	9.1	3	6.7
	合計	2,494	2,375	2,648	154	6.2	273	11.5
営業利益	受動部品	62	78	98	36	58.1	20	25.6
	磁気応用製品	78	71	82	4	5.1	11	15.5
	フィルム応用製品	33	3	52	19	57.6	49	-
	その他	△ 8	△ 4	1	9	-	5	-
	小計	165	148	233	68	41.2	85	57.4
	全社および消去	△ 40	△ 52	△ 50	△ 10	-	2	-
	合計	125	96	183	58	46.4	87	90.6
営業利益率		5.0%	4.0%	6.9%	+1.9pt	-	+2.9pt	-
為替	対ドルレート (円)	99.02	102.17	103.86				
	対ユーロレート (円)	131.11	140.17	137.77				

Copyright © 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 上半期決算説明会

TDK株式会社

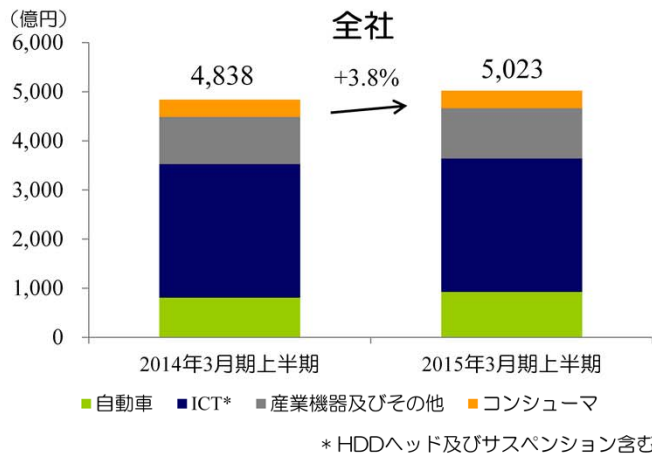
2014年10月31日 - 11 -

続きまして、第一四半期から第二四半期のセグメント別の売上及び営業利益の増減要因についてご説明いたします。まず受動部品の第二四半期の売上ですが、第一四半期の1,234億円から90億円、7.3パーセント増加し1,324億円となっております。そのうちコンデンサーですが売上が8億円、2.2パーセント増加し373億円。自動車市場向けや産業機器市場向けが堅調に推移しております。次にインダクティブデバイスの売上ですが21億円、5.7パーセント増加しまして388億円となっております。第一四半期に引き続き好調な中国スマートフォン向け販売に加え、第二四半期で立ち上がった北米のスマートフォン新機種向けの販売等、ICT通信機器市場向けが大きく伸びております。

次に、その他受動部品の第二四半期の売上ですが60億円、12.0パーセント増加し、562億円となっております。インダクティブデバイス同様、旺盛な中国スマートフォン向けの需要や北米スマートフォン新機種の立ち上げにより、高周波部品の販売が伸びております。受動部品の営業利益は、第一四半期の78億円から20億円、25.6パーセント増加し98億円となっております。自動車市場向けの販売が堅調に推移し、あわせて中国スマートフォン向けの旺盛な需要や北米スマートフォン新機種の立ち上げ等もございまして、各製品の稼動も高水準で推移しております。高周波部品は第一四半期より、引き続き収益性の高いディスクリートの販売が伸びて、さらに生産性の改善も進み収益性がさらに改善しています。

次に、磁気応用製品のセグメントですが、第二四半期の売上が871億円から33億円、3.8パーセント増加しまして904億円となっております。記憶デバイスの第二四半期の売上は46億円、7.8パーセント増加し637億円となっております。ゲーム機器用やPC用のHDDの生産が堅調だったこと、また、ニアライン等のデータセンター向けの出荷も増えまして、HDDヘッドの出荷数量が前回の予想よりプラスとなりました。次に、その他磁気応用製品の売り上げですが13億円、4.6パーセント減少し267億円となっております。磁石、電源とも産業機器市場向けは、ほぼ横ばいで推移いたしましたが、ICT向けや自動車市場向けがマイナスとなっております。磁気応用製品の営業利益は第一四半期の71億円から11億円、15.5パーセント増加し82億円となっております。記録デバイスの利益がHDDヘッドの出荷数増で増益となった一方、その他磁気応用製品は売り上げ減の影響で若干減益となっております。

次に、フィルム用製品の第二四半期の売上ですが、第一四半期の225億円から147億円、65.3パーセント増加しまして372億円となっております。営業利益は第一四半期の3億円から49億円増加し52億円となりました。これは二次電池の主要顧客向けの販売が第一四半期は低調でございましたが、第二四半期より新機種向け製品の出荷も始まり、また中国市場向けも拡大したことで売上・利益とも回復しております。その他、製品につきましては、売上は3億円増加し48億円。営業利益については第一四半期の赤字の4億円から5億円改善しまして1億円の黒字となっております。これは新事業製品の採算性が改善したことによります。全社及び消去については第一四半期の52億円に対して第二四半期は50億円となり2億円影響が減少しております。



自動車：

受動部品の売上拡大

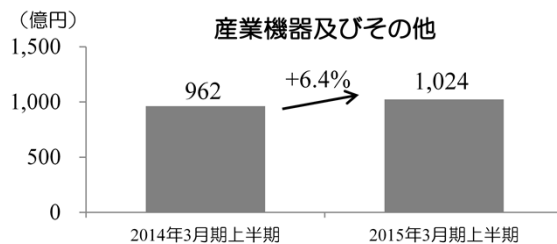
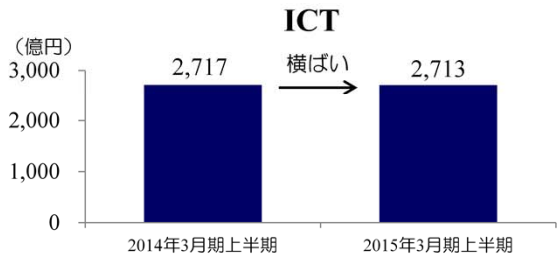
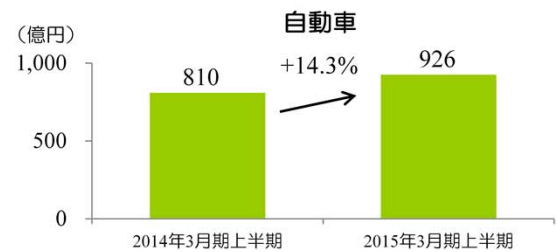
ICT（情報通信技術）：

受動部品の売上拡大

HDDヘッドの売上減少

産業機器及びその他：

産業機器向け電源の売上拡大

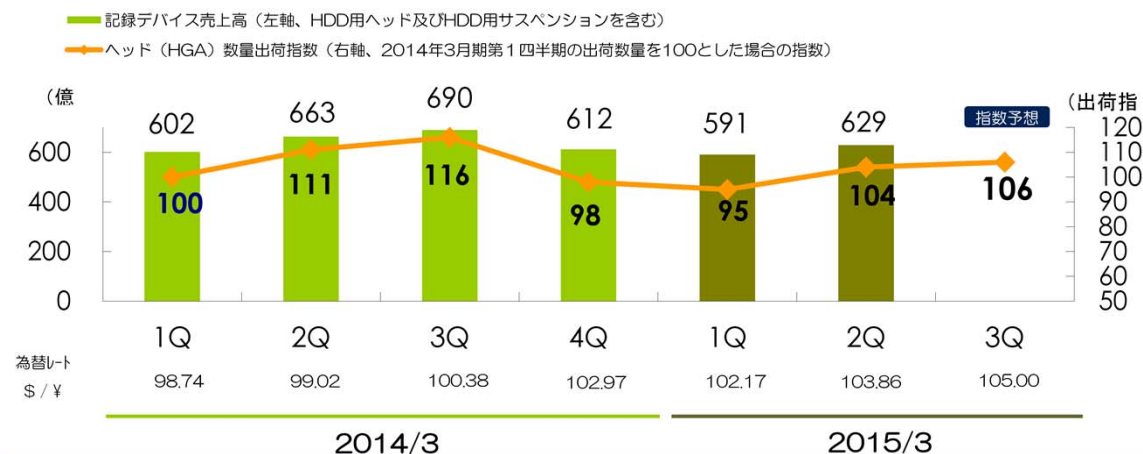


次に、重点三分野の上半期の売上状況についてご説明いたします。まず自動車市場ですが北米市場が堅調に推移しまして受動部品の売上が大きく拡大しております。インダクティブデバイス、セラミックコンデンサ等、受動部品すべての製品で増加し14.3パーセント増となっております。ICTにつきましては中国スマートフォン向けの売上は増加いたしました、HDDヘッドの売上が減少した結果、全体では横ばいとなっております。産業機器および、その他は産業機器向けに電源および受動部品の売上が拡大した結果、6.4パーセント増となりました。

◆2015年3月期のHDD（ハードディスク）市場 ※当社推定

- ・約5.35億台（4月末時点）
- ・約5.52億台（7月末時点）
- ・約5.60億台（現在推定、前回推定より800万台増加）

◆当社のHDDヘッド出荷指数推移



Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 上半期決算説明会

TDK株式会社

2014年10月31日 - 13 -

次に、記録デバイス事業についてご説明いたします。2015年3月期のHDD市場の推定でございます。前回7月末に、4月末の推定5億3500万台から5億5200万台にあげたわけですが、今回また800万台増加しまして現時点では約5億6000万台で見えております。これに合わせてHDDヘッドの出荷の推移でございますが、2014年3月期の第一四半期の出荷数量を100としまして、この第二四半期が104、このあとの第三四半期を106と見ております。以上、私のほうから上半期の業績概要の説明とさせていただきます。どうもありがとうございました。

2015年3月期 通期見通しについて

代表取締役社長
上釜 健宏

上釜でございます。本日は多数ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。それでは私のほうから2015年3月期通期見通しについてご説明申し上げます。

重点市場	市場動向
ICT	↗ 中国スマホは2Q調整から3Q生産回復へ
	↗ 北米スマホ好調、3Q生産ピークで4Qも前年を上回る見込み
	→ HDD市場は期初想定より下期も堅調に推移する見込み
自動車	→ 欧米メーカー中心に下期も堅調に推移する見込み
	→ 国内は上期販売台数前年割れ、下期横ばい、微増の予測
	→ xEV*は主要市場の日本や米国で販売台数の伸びが鈍化
産業機器	→ 工作機械、ロボット関係は下期も好調維持の見込み

→(矢印)は上期に対する変化イメージ
 *xEV: EV、HEV、PHEV

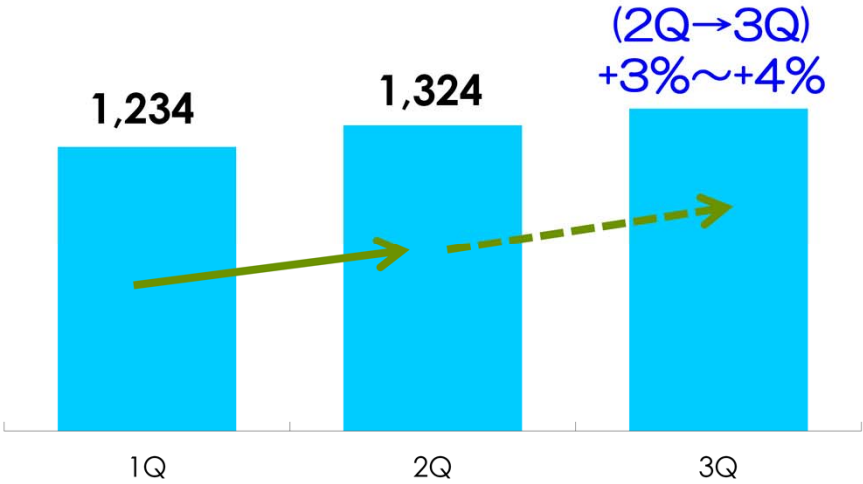
まず、下期の市場動向をご説明いたします。ICT分野は、中国スマートフォンが第一四半期は絶好調でしたが、第二四半期はその分若干調整が入りました。しかし、また第三四半期から回復してきております。また、北米スマートフォン市場も好調で、第三四半期の生産がピークになる見込みです。例年第四四半期はかなり落ち込むことが多いのですが、今期の第四四半期はそれほど落ち込まないのではないかと見込んでおります。HDD市場につきましては、期初想定より下期も堅調に推移すると見込んでおります。ニアライン市場が増えてきそうな兆しがあります。自動車市場ですが、欧米メーカー中心に下期も堅調に推移する見込みです。国内は、上期販売台数が前年割れし、下期も横ばいか微増だろうとみております。EV、HEV、PHEV等の市場については、主要市場である日本や米国で販売台数が鈍化しております。最後に産業機器市場ですが、工作機械、ロボット関係は下期も好調を維持する見込みでございます。

事業	製品	下期動向
受動部品	インダクタ	金属系（薄膜、積層）製品の販売拡大 高周波コイル（積層）の需要増
	高周波部品	ディスクリート製品の販売増加
	圧電材料部品	VCM（高画素、高特性品）の販売増加、OIS引き合い増加
磁気応用	HDDヘッド	2Q→3Q数量増加
	マグネット	HDD用VCM、磁石の販売減少
	電源	EV電源の顧客需要下振れ
フィルム応用	二次電池	北米、中国向け需要は3Qがピーク 4Qも前年同期比プラスの見込み

続きまして主要製品の下期動向について簡単に説明いたします。まず受動部品ですが、インダクタの金属系の薄膜積層製品の販売が拡大してまいります。あとは積層高周波コイルの需要が増加してまいります。高周波部品につきましてはSAW、BAW等のディスクリート製品がさらに増加する見込みでございます。あとは圧電材料部品でカメラモジュールに使われるVCMの販売が増加する見込みです。特に手振れ防止用アクチュエーターのOISに対する引き合いがかなりきております。

磁気応用製品についてですが、HDDヘッドは、先程も申し上げましたが第二四半期よりも第三四半期のほうが出荷数量が増加する見込みです。マグネットは、HDD用のVCMを中心に残念ながら磁石の販売が減少する見込みです。電源は、顧客需要の下振れによりEV電源が減少する見込みです。最後に二次電池ですが、北米・中国向け需要が第三四半期にピークになるわけですが、第四四半期もそんなに落ちることなく例年よりは高い水準で推移するのではないかと見込んでおります。

受動部品

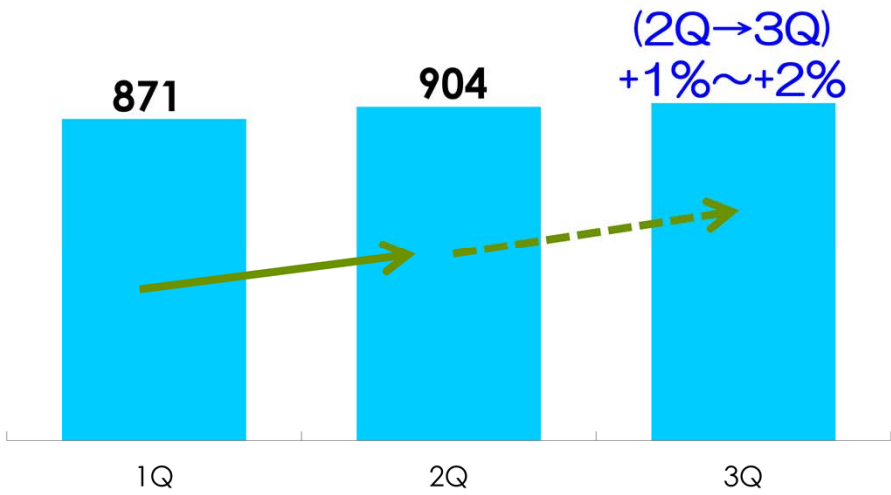


為替レート

	1Q実績	2Q実績	3Q想定
対ドルレート (円)	102.17	103.86	105.00
対ユーロレート (円)	140.17	137.77	135.00

次に、各セグメントの第三四半期の売上見通しについてご説明いたします。受動部品、磁気応用製品、フィルム応用製品、全社の売上の変化イメージをグラフにしてみました。まず受動部品ですが、第二四半期から第三四半期にかけて売上は、3パーセントから4パーセントの伸びを見込んでおります。

磁気応用製品

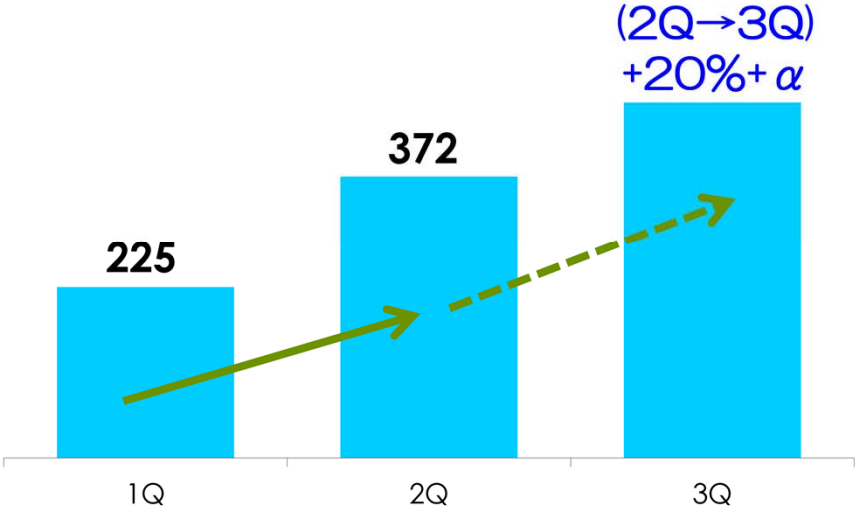


為替レート

	1Q実績	2Q実績	3Q想定
対ドルレート (円)	102.17	103.86	105.00
対ユーロレート (円)	140.17	137.77	135.00

磁気応用製品は、HDDヘッドの数量が増えますが磁石の販売が低調ですので、1パーセントから2パーセントの増加を見ております。

フィルム応用製品

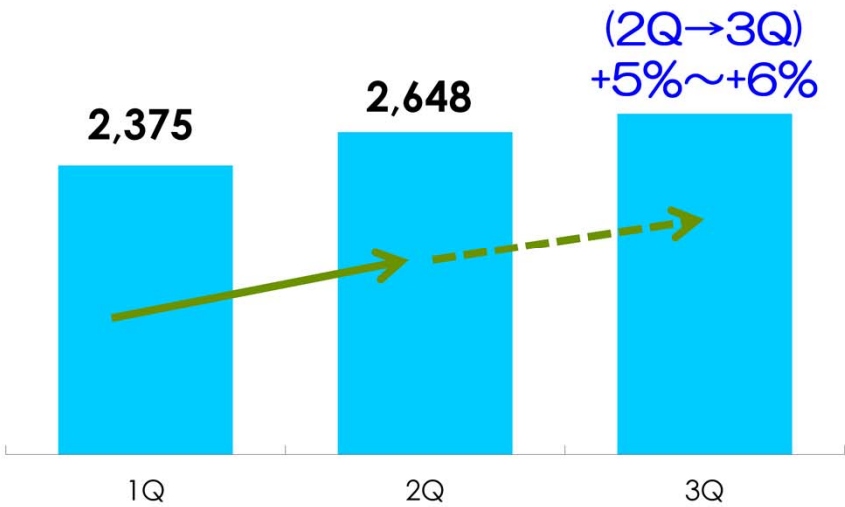


為替レート

	1Q実績	2Q実績	3Q想定
対ドルレート (円)	102.17	103.86	105.00
対ユーロレート (円)	140.17	137.77	135.00

フィルム応用製品は、第一四半期から第二四半期にかけて、65.3%売上が増加しましたが、第三四半期はさらに20パーセント以上の伸びが期待できると見込んでおります。

全社



為替レート			
	1Q実績	2Q実績	3Q想定
対ドルレート (円)	102.17	103.86	105.00
対ユーロレート (円)	140.17	137.77	135.00

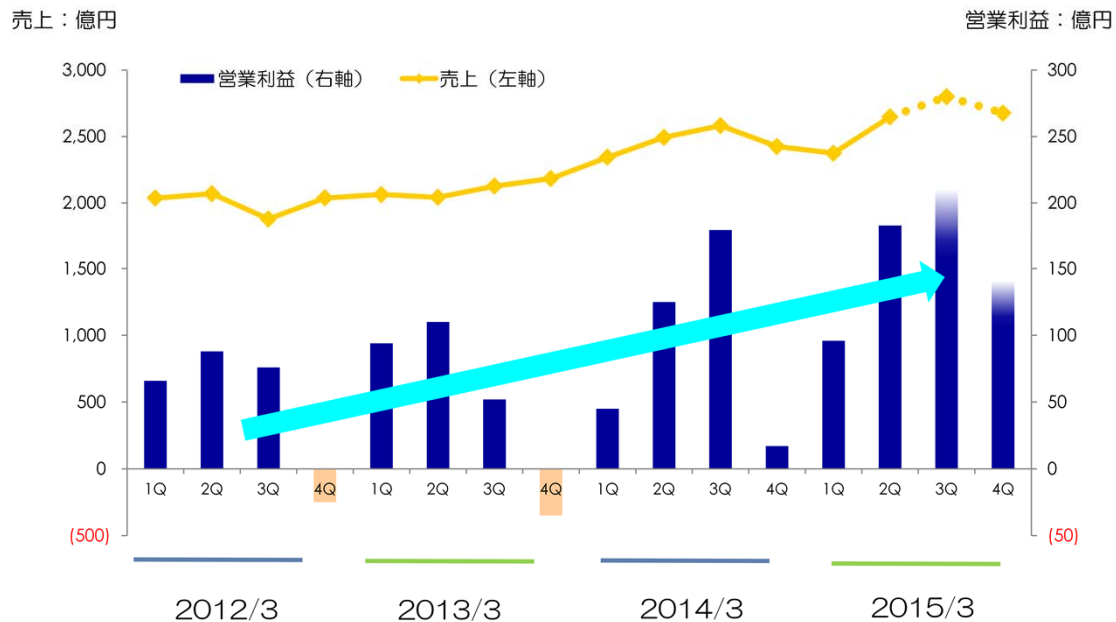
全社では、5パーセントから6パーセントの伸びを見ております。

期初公表値（4月28日）から上方修正

(億円)	2014年3月期 通期実績	2015年3月期 業績予想 (期初公表値)	2015年3月期 業績予想 (修正版)	修正業績予想対前年同期比	
				増減	増減率(%)
売上高	9,845	10,500	10,500	655	6.7%
営業利益	366	570	630	264	72.1%
営業利益率	3.7%	5.4%	6.0%	+2.3pt	-
継続事業税引前利益	398	560	620	222	55.8%
当期純利益	163	340	370	207	127.0%
1株当たり利益(円)	129.47	270.23	293.98	-	-
配当金(円)	上期：30円 下期：40円 年間：70円	上期：40円 下期：40円 年間：80円	上期：40円 下期：40円 年間：80円	-	-
為替 対ドルレート	100円26銭	100円	下期 105円	-	-
	134円42銭	135円	下期 135円	-	-
固定資産の取得 (設備投資)	686	800	900	214	31.2%
減価償却費	829	830	830	1	0.1%
研究開発費	634	680	680	46	7.3%

最後になりますが、2015年3月期連結業績の予想および配当金の見通しについてご説明いたします。売上高1兆500億円、営業利益、前回4月28日に発表いたしました営業利益570億円に対して若干上方修正しまして630億円と見込んでおります。税前利益620億円、純利益370億円、一株あたりの利益293円98銭を見込んでおります。配当金ですが前回の発表のとおり上期40円下期40で、通期で80円を見込んでおります。為替ですが対ドルに対する下期のレートは105円、ユーロについては135円と見込んでおります。あと設備投資に関しまして、前回発表で800億と発表しましたが、今回増産投資を前倒ししてやると決定し、900億円に変更させていただいています。その他、減価償却費、これは前回公表同様830億円のなかで収めていきます。研究開発費も680億と前回発表の内容のとおりでございます。

受動部品事業を大幅に改善。
バランスの取れた利益構造で、全社の収益力を一段と強化。



最後ですが、受動部品事業を大幅に改善できたことで、事業全体としてかなりバランスのとれた利益構造が見えてきたと思っています。まだまだ収益性は改善の余地があると考えておりますが、全てのセグメントで稼げる力が出てきたと思っています。スライドのグラフは、2012年3月期からの業績推移になりますが、ご覧のとおり、従来は第四四半期に利益が落ちる傾向があったのですが、先程も申し上げました通り、今期2015年3月期は例年よりも、かなり堅くそれほど落ち込むことはないだろうと想定しております。

以上でございます。ありがとうございました。

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2015/2q_1.htm